

第1回（仮称）これからの図書館構想策定検討委員会 議事録

- 1 日時 令和2年10月8日（月）午後7時～午後8時50分
- 2 場所 練馬区役所本庁舎20階 交流広場
- 3 出席者 野口委員長、長谷川副委員長、齋藤委員、田倉委員、片岡委員、三澤委員、中川委員、河原委員、江島委員、湯澤委員、八尋委員
- 4 事務局 教育長、教育振興部長、光が丘図書館長、計画調整係係長、計画調整係職員
- 5 公開の可否 公開
- 6 傍聴者数 0名
- 7 議事等
 - (1) 委員委嘱
 - (2) 自己紹介
 - (3) 委員長の選出、副委員長の指名
 - (4) 設置要綱および会則について
 - ・設置要綱の説明
 - ・会則の説明
 - (5) 議題
 - ・練馬区立図書館の現状について
 - (6) 意見交換
 - (7) 次回の予定
- 8 配布資料
 - (1) （仮称）これからの図書館構想策定検討委員会 委員名簿
 - (2) （仮称）これからの図書館構想策定検討委員会設置要綱
 - (3) （仮称）これからの図書館構想策定検討委員会の運営等について
 - (4) 練馬区立図書館の現状について

9 会議の概要

(1) 委員委嘱

河口教育長より、各委員へ委嘱状交付。続き、河口教育長による挨拶

○ 河口教育長

練馬区教育委員会、教育長の河口でございます。今回、これからの図書館構想策定検討委員会の委員をご承諾頂き、大変感謝致します。練馬区は、昭和37年に建設された練馬区立練馬図書館から始まり、現在では12館1分室がございます。この間、図書館を利用してくださる皆様、そして図書館の運営を支えてくださった様々な方のお力添えにより、練馬区の図書館は着実に歩みを進めてきたのではないかと思います。社会状況の変化に伴い、これからの図書館は、変えてはいけないものは当然ありますが、変えなくてはならない部分もあるはずで、今求められている図書館とは何か、皆様方それぞれのご経験の中で、ご意見をお出し頂いて、練馬区のこれからの図書館の方向性を話し合ってもらえればと考えております。練馬区立図書館がいつそ役に立ち、愛される図書館になってくれることを願い、皆様方にぜひよろしくお願ひ致しますと申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。

(2) 自己紹介

各委員自己紹介。続き、事務局より挨拶

(3) 委員長の選出、副委員長の指名

委員の互選により野口委員を委員長として選出。野口委員長が長谷川委員を副委員長として指名

(4) 設置要綱および会則について

事務局より、資料2「(仮称)これからの図書館構想策定検討委員会設置要綱」に基づき設置要綱について説明

(委員による質問・意見無し)

引き続き事務局より、資料3「(仮称)これからの図書館構想策定検討委員会の運営等について」に基づき会則について説明

(委員による質問・意見無し)

(5) 議題

事務局より、資料4「練馬区立図書館の現状について」に基づき説明

(6) 意見交換

○ 委員長

1回目ということで、各委員それぞれの図書館への想い、今後の図書館像についての意見を共有したいと考えます。各委員全員、順番に意見を述べて頂きます。

○ 委員

資料4にある「練馬区立図書館の現状」P4利用状況において、青年(13歳~18歳)の来館者数がマイナス31.0%とありますが、実際に私も中高生の頃は学習スペースで勉強をすることはあっても図書館で本を読むことは無かったように思いますし、利用するようになったのは大学に入ってからです。図書館は本を貸すことだけにとどまる必要は無いと思いますし、若者に本に触れてもらうという視点だけではなく、どうしたら図書館に来てもらえるのかを考えても良いと思います。練馬区の取組の中にある、区民や地域との協働などを軸に考えていけば、どの世代にも親しみやすい図書館になると考えます。

○ 委員長

中高生に来てもらおうと考えるときに、中高生とどうコラボレーションできるかという視点が重要になってきます。そういう取組ができればいいと考えます。

○ 委員

この利用状況は、学校図書館や団体貸出のデータは含まれていないのでしょうか。今はアクティブラーニングといって、生徒同士が交流しながら学習することが求められています。資料4「練馬区立図書館の現状」P8に図書館サポーターの育成とありますが、これは既にあるのでしょうか。

○ 事務局

今回のデータは、あくまでも公立図書館での利用状況です。今年度で学校図書館蔵書管理システムの導入が完了するので、来年度以降各校の利用状況などが統計として分かるようになります。また、団体貸出については、学校には、最長3ヶ月間300冊まで、申し出があれば授業にあった団体貸出をしているところでございます。小中学生向けに、定期的に図書館見学等も行っています。また、図書館サポーターについては、NPO法人「一步の会」などの方たちに、図書館での音読や読み聞かせなどをサポートしていただいております。これからますます区民のお力を借りてまいりたいと考えております。

○ 委員

図書館も本を与える場としてだけでなく、そのようなサポーターの裾野をもっと広げ、協働していくのが重要だと考えます。

○ 事務局

練馬区では「子ども読書活動推進計画」を策定しており、その中に乳幼児から青少年までの切れ目ない読書活動の支援という計画を立てているところで、学校図書館の利活用や青少年の居場所はこの計画に基づき進めております。こちらもまた改めて勉強する機会を設けたいと考えております。

○ 委員

図書館は静かでなくてもいいと考えます。例えば、元教え子に「勉強を教えて欲しい」と言われても、図書館には声を出せる場所がありません。今後は、本の貸出という視点だけではなく、場として利用できると良いと考えます。また、IT を利用できる・できないで格差が激しい状況です。それも図書館として情報提供するなど、本だけに限らず多角的に利用できる図書館であれば良いと思います。

○ 委員長

今、まさに大学を含めて学校では主体的で対話的な深い学びとして、アクティブラーニングを目指しています。大学図書館でも学びを共有しあうラーニングコモンズという考え方があり、それも静かな場所だけでは実現できません。そういうラーニングコモンズのような視点が今後の公共図書館でも求められてくるのではと考えます。実際にそういう方向をとる図書館もあります。

○ 委員

資料4【練馬区立図書館の現状】P6のこれからの図書館サービスの方向性の「情報発信拠点の機能の充実」「区民や地域との協働」について、これからは専門性を帯びた情報を発信することが重要なのではと考えます。例えば、各館独自の専門性を高めたり、レファレンスサービスの能力を高めたりすることで、司書の地位向上を図り、それが館独自の専門性というものにつながるのではと思います。

○ 委員長

公共図書館はこれまで全館フラットであり、どの館へ行っても同じサービスを受けられるというものでしたが、今後はそこにプラスアルファの特色をどう出すかが重要だと考えます。

○ 委員

この委員会の目指す方向が、図書館の将来を考えるということにつながります。資料4【練馬区立図書館の現状】P9には、「地域特性を踏まえ、これからの図書館に求められる役割やサービスについて検討を行う」とあります。まず私が知りたいのは、練馬区民のキャラ

クター性というか、どういう人がどういう図書館を求めているのか、その地域性というものを知りたいです。荒川区の「ゆいの森あらかわ」へ行ったときに、飲食ができる場所があり、人で賑わっていました。荒川区民と「ゆいの森あらかわ」がうまくマッチングして人を集めているのかなとも考えます。練馬区民の特性やニーズにあわせた選書をしているのか、そういったこともあわせて考えると、将来の図書館像とつながるのでは。少子高齢化や地球温暖化、AI 問題等、一般的に言われていることはたくさんありますが、地元の人が喜んで利用できるように検討が必要なのではと考えます。資料4【練馬区立図書館の現状】P5の表を見ると、練馬区は図書館数12館1分室ですが、図書館数が16の大田区と蔵書数はほぼ同じです。こういうところにも特色があるのではと思います。

○ 委員

宮崎県都城市立図書館に行きました。建築も素晴らしいですが、大人の方はカフェで飲食しながら本を読み、2階の奥のティーンズコーナーでは、日曜だというのに中高生がたくさん集っていて大変驚きました。ティーンズコーナーは飲食してもいいし、話してもいいフリースペースで、本を読んでいる子は少ないものの、みんな楽しそうにワイワイしていました。こんなふうに図書館がティーンズの集う場所になるのは素晴らしいと感じました。児童コーナーは、本棚に囲まれた真ん中のスペースが広く、寝転がりながら本を読んでいる家族の姿がありました。私自身、図書館に行って本を借り、また返すというのが面倒で、欲しい本はつい買ってしまいます。でももし、居心地良く、親子で行っても1日過ごせる場所であれば、生活の中で図書館を利用することが当たり前になるのではないのでしょうか。また、その際に重要なのはやはり司書だと思います。都城市立図書館では各コーナーにお薦めの本コーナーを設置していて、選書も大変魅力的で、素晴らしい司書がいるのだと感じました。図書館はやはり「この本、読んでみようかな」と思えるきっかけづくりをすることも重要だと考えます。魅力ある本が並び、ちょっと手にとって読んでみて半日過ごす。公共図書館がそうなったら、地域の人たちの利用も増えるし、滞在時間や頻度が高ければ、交流もあるかもしれない。青少年も、本を身近に感じるのかもしれない。現代は、動画配信など、子どもたちに魅力的なものがたくさんあります。読書をすれば、イメージを膨らませる力にもつながります。今の子どもたちと接していて感じるのは、イメージがとても貧困だということ。もっと親子で過ごせる、本に親しめるアプローチができれば良いと考えます。

○ 委員長

最近作られている図書館は、工房があったりキッチンスペースがあったり、図書館に公民館的機能を持たせている施設も多くあります。

○ 委員

資料4【練馬区立図書館の現状】P1の法令から見る図書館の役割についてですが、私は、これ自体から変えたり、強化したりしても良いのではと考えます。根本を変えることで、そ

の先も変化できるのではないのでしょうか。それをみなさんで変えていくのも面白いと考えます。昔は情報を得る手段として本しかありませんでしたが、今はそれが大きく変わろうとしています。図書という言葉にしばられるより、情報という言葉に置き換えて考えた方が、イメージしやすいのではないのでしょうか。私はパソコンの修理やサポート業務に携わっていますが、パソコン機器を使いこなせる人と使いこなせない人で得られる情報の差が激しいと感じています。先ほど情報格差という言葉が出ましたが、情報を得たいと思ったときに得られる人と得られない人で格差が生まれます。この図書館の役割のところにぜひ「平等に情報を得られる」という文言を入れて頂きたい。この役割をみんなで決め直すぐらいのつもりで検討すると、これからの図書館という話になるのではと考えます。

○ 委員長

情報交換という意味では、コミュニケーションもいまの話とつながっています。メディアだけでなく、人の会話というのも情報だし、それ自体を共有できる場というのが図書館であってもいいのでは、と皆さんの意見を聞いて考えました。公立の図書館でも、図書という言葉を使わずに「総合情報館」などと名乗っている図書館もあります。そういう視点で将来のビジョンを定めていくことも可能だと思います。

○ 委員

私自身、ボランティアとして図書館に参加していますが、この資料4【練馬区立図書館の現状】にあるようなサービスをしていることはほとんど知りませんでした。こういったことをもう少し分かりやすく、情報発信できたら良いのではと考えます。例えば保健所で図書館のイベントなどを紹介していても、外国人では読めない人もいるし、まだ落ち着きの無い幼児を2人連れてパンフレットを手取る、というのも難しいということもあります。そういった情報発信の仕方も、例えばデジタル化するなど今後は変えていく必要があります。大変良い企画でも一部の人しか知らなければ、情報格差にもつながります。資料4【練馬区立図書館の現状】P11～12の「各館の現状」には、ティーンズコーナーや授乳室があるということが明記されていますが、現在の図書館の現状をもう少しかみ砕いて記載し、こんなことをやっていると分かりやすく発信していくことも重要だと考えます。

○ 委員長

情報の提示方法として、図書館では「レファレンスサービス」など、一般になじみのない用語も多用されているので、そういう点も含めて、捉え直していくというのは重要かもしれません。

○ 委員

私は練馬区の図書館でブックスタートやおはなし会のボランティアをしており、各館が特色を持って、地域と連携して頑張っているのを感じていますが、各館の良いサービスは共

有してもらいたいです。これからの図書館は、必要な情報をすべての人が得られるということが重要と考えます。「子ども読書活動推進計画」では、日本語を母国語としない子どもへの支援も新たに加わっているので、障がいを持った方や、外国人など、すべての人へのサービスという視点が大変重要と考えます。また、先ほど図書館員の専門性についての意見がありました。練馬区には、図書館専門員が57名いらっしゃいます。専門員の方たちは練馬の大きな特色だと考えるので、うまくサポートしてもらおうと良いと考えます。それと、情報という意味でいえば、資料4【練馬区立図書館の現状】P5で蔵書数が4位とありますが、図書に限らずいろいろな資料を提供するのは重要と考えます。貴重な資料を持っている図書館以外の区の施設とつながることも、今後は重要ではないかと考えます。

○ 委員長

各館の特色を、区民により明確に示すと同時に、12館1分室による一体的なコンセプトのようなものがより鮮明になっていくと、横のつながりもよりくっきりと見えてくるのかなと考えます。また、区内の類似の機能を有している施設との連携、それもつながりであり、今後はそれをどう強化していくかということも大切ではないでしょうか。

○ 委員

私は図書館を、取り寄せた資料を受け取る窓口としてだけ使っていました。現在、練馬区の「つながるカレッジ」に携わっていますが、ここではさまざまな部署が集まり、各専門知識を発揮しながらゆるやかに連携し、区民に情報を提供しています。資料4【練馬区立図書館の現状】P2に、「他部局と連携」とありますが、図書館に関しても、生活のニーズや、市民の潜在的なものに対して応えようと考え、他部局との連携は避けられないし、非常に重要なのではないかと思います。練馬区は市民活動が大変盛んであり、多様で、地域ごとにいろいろなところから展開されています。そういったところからも練馬らしさが出てくるのではと考えます。さらに「まちづくりの中核」とありますが、この言葉は言い換えると地域力を高めることだと考えます。まさにその中核になるのが図書館になる可能性は高い。地域力に関しても、さまざまな人がいろいろなことを言っていて、ある人は「教育を含む情報、人、協働、この3つがどう存在するかが地域力を高めていく上で重要」と言っています。先ほど委員長が話していた「公民館機能をどう図書館に持ち込むか」という話と情報、レファレンスという話をどう蓄積して、そこにどんな人が関わっていくのかが重要なんだろうと考えます。また、資料4【練馬区立図書館の現状】P3の練馬区立図書館の地図に学校や公民館、区役所の出張所、図書館と関連しそうな施設や市民活動の拠点をプロットしておく、また違うものが見えてくるのではないのでしょうか。そうすると地域ごとの特色も見えてくるのではないかと思います。エコ・ミュージアムというものがありますが、これは生活の博物館と呼ばれています。先ほど司書の専門性の話がありましたが、エコ・ミュージアムの中では司書の専門性だけでなく、市民一人ひとりが司書になり、展示物はまちじゅうに広がっています。このように、図書館が図書館の中だけに収まらない、例えば練馬区全体が図書

館になるなど、そういうのも面白いのではないかと考えます。

○ 委員長

島根県海士町では「島まるごと図書館」といって、島中の公共施設に分室を設け、どこでも貸し借りができるようにしています。そういった発想がもし練馬でもできたら面白いのではないのでしょうか。

○ 副委員長

先ほど、図書館を窓口として利用していたという話がありましたが、もっと活用することができるということを思い浮かべられるようにするのが図書館としての役割ではと考えます。情報を得ようと思わないと何をやっているかわからないではなく、パッと目に入ってくるような、そんなPRの仕方が重要だと思います。また、情報格差が無いようにすることも大事ですが、格差の現状を分析し、解消する取組が図書館でもできたら良いと思います。私は図書館利用者の研究をしており、単純な統計ではなく、いろいろ分析すると新しいことが分かってきます。もし今後、そういう機会があれば皆さんで検討できたら、面白いと考えています。利用者と協働し、練馬といえば、ということ在全国に発信できたらいいと思います。

○ 委員長

図書館の利用登録をしている区民の方は、全体の3割くらいです。残りの7割の方々にどう図書館の利用に結びつけていくか、というところでいろいろアイデアを出していくことが大切で、本日はみなさんとお話して、たくさんのヒントが得られたと考えます。私としては「アウトリーチ」という視点が大変重要と考えています。待っているのではなく、図書館側から区民へアプローチする。立派な施設も重要ですが、いかに図書館の機能を高めていくかという観点で捉えるのが重要と考えます。本日、みなさんからいただいた意見は、次回また深めていきたいと思っています。

本日はありがとうございました。

(7) 次回の予定

閉会